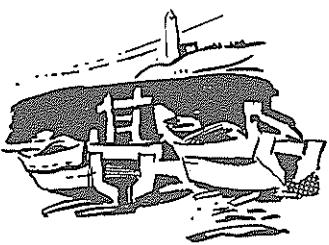


同和教育シリーズ ④



部落解放への道

「寝た子を起すな」とか、「お前は自然解消されるものではないでしょか。やかましく言うことによると、何も知らない子どもたちにまで差別を教えることになり、かえって差別を広めることになると思はずが……」

このような意見は昔から現れて地区内でも地区外でも、よくわれていることはです。

地区内でこのような意見をする人の大部分は比較的経済的に高まれた人や、社会的地位の高い人たちですが、よく話し合うところでも、差別がないと心から思っているのではなく、むしろ、い昔の差別を思い出すので傷きわってほしくないという考え方です。また、地区外の人々に対する劣等感や被差別感をカモフリジュするため虚勢をほつてのような考え方をもっている人

い ま
は な り ま せ ん。
つ ぎ に 「 小 さ な 子 供 は 何 も 知 ら
な い 純 真 そ の も の だ、 何 を す き 好
ん で 余 計 な こ と を 教 え る の か、 こ
の ま、 そ つ と し て お け ば 年 月 の 経
過 と と も 自 然 に 解 決 す る 」 と い う
意 見 も よ く 聞 か さ れ ま す。 し か し
本 当 に そ う で し ょ う か。 小 さ い 子
供 は た し か に 純 真 で 何 も 知 り ま せ
ん が 大 人 で 部 落 問 題 に つ い て 何 も
知 ら な い と い う 人 は 過 往 の 高 知 県
の 調 査 で は ほ と ん ど い ない と い う
結 果 が 出 て い ま す。 い つ、 ど こ で
だ れ か ら 知 ら さ れ た か、 し か も、
こ の 知 り 方 が 問 題 で す。 部 落 の 人
た ち の こ と を 差 別 的 に 教 え ら た

前にのべたような現代社会の部落差別とは何かということがよくわかつておらず部落の人を、昔の差別的な言葉や手ぶりなどで侮辱することが差別だと考へている人が多いようですが、このように考えている人たちは部落問題の本質を正しく理解していくだからなくて

ため、心の底に根深い偏見や差別観念を植えつけられている人が多いのです。この人たちも過去には純真な幼少年期もあったはずです。現在何も知らない子どもであると、いうことは長じて差別偏見をもつた大人になるという可能性を持つているということです。

ではないでしょうか。この高校の調査では、これに似たりよつたりの間違った考え方をもつた者が千二三百人をこえる生徒の中で約三千五百人もありました。しかも学校の中でも、部落差別を「受けた」「した」「見聞きした」という生徒が、かなりおります。けつして大人だけの問題ではないのです。また、部落差別は単に偏見や差別意識とい

県西部のある中学生は作文の中
で、（前略）現在でも差別ではなく
なつたようく表面では見えるけれ
ども、少しもなくなつてはいない。
おばん（おばあさん）が孫に
○○（部落の差別用語）は
きたない台所でも平気なんや
○○はくさいで
○○の部落は貧乏人ばかりだか
ら遊びに行つたらいかん
といったことを教えていた。なぜ
遊んだらいかんやろうか。どこも
一般の人と変りないのでどうして
そんなことを教えるんだろうか。
(後略)またある高校生は部落
問題の感想文で（……人の話しに
よると、部落民は不潔で色が死人
のよふにとす黒く、口汚く、けち
て性質のよくない人たちだそうだ
（中略）部落出身者との結婚に反

現代社会における部落差別は前
号でも述べたように日本国民に平
等に与えられているはずの市民的
権利や自由が、同和地区住民には、
さきわめて不十分にしか保障され
ていないということが今日の差別
であり、そのことが同和地区の貧
しきや低地位、後進性をうみだし
ているのですから「同和教育無用
論」「同和対策事業不採用論」は、
ちょうど病人を病気でないと診断
し、ついには回復不能においてやる
のと同じで、危険このうえない誤
りを犯すものであり、客観的には
差別をいつまでも残し続ける役割
りを果すものであつて、こういう
考え方そのものが差別であるとい
わざるをえないのです。

対するということは、梅毒をもつてることを知つて結婚する人がいないと同じことである……。」

☆☆☆☆